

チームけせんの和 だより

2021
vol.32
11月号

発行 陸前高田の在宅療養を支える会（チームけせんの和）

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字太田56（T512-2）TEL 0192-54-3221 FAX 0192-55-5241

「チームけせんの和に寄せて」

東部デイサービスセンター管理者 熊谷 敬子



皆さま、いつもお世話になっております。

当事業所の紹介をさせていただきます。

社会福祉法人高寿会東部デイサービスセンターは、平成9年4月に開所し25年目を迎えました。

広田・小友・米崎・矢作・大船渡の方が利用されており、月曜日から日曜日まで365日営業し、定員35名の施設です。ご家族の希望に応じ、利用日や利用時間の変更等にも柔軟に対応しております。

1日の流れとして、通所介護と予防介護の2グループに分かれ、午前中は入浴、通所介護は小集団トレーニング、予防介護は運動器機能向上訓練を実施しております。午後は、通所介護はADL維持訓練活動で「座る・立つ・歩く」など「身体機能維持・向上」への働きかけが中心の運動を小集団で行っています。予防介護は、個別機能訓練を実施し下肢や体幹の筋力低下を予防し、生活機能を維持・改善するための運動を小集団で行っています。その他：「したいこと」「得意なこと」として、予防介護の方に得意分野を生かして、草取り、野菜作りを行っております。このような活動を行う事により、「日常生活の維持向上」を目指し利用者様がご自宅でいつまでも元気で暮らし続けるために一つでも多くの「できる」を増やすことを目標に支援しております。

震災から10年、月日の経つのも早いものですね。東部デイサービスも床下浸水の被害に遭い、その日の利用者様は高寿園に避難して全員無事でした。

色々な人達に支えられてここまで来られたことに感謝致します。

震災の時、人との繋がりがとても大切だと感じました。「チームけせんの和」に参加することで人との繋がりをより一層深め、地域で暮らす事の支えの一つに繋がっていかれたらと思っております。

今後とも宜しくお願いいたします。



チームけせんの和に寄せて

気仙地域リハビリテーション広域支援センター 主任作業療法士
戸羽 真広



気仙地域リハビリテーション広域支援センター（以下センター）作業療法士の戸羽と申します。日頃より当センター事業にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

私は令和3年度から当センターの主担当を務めさせて頂いております。所属は大船渡市の介護老人保健施設気仙苑ですが陸前高田市の介護予防事業には平成30年度から参加させて頂いており、地域包括支援センターの皆様、関係事業所の皆様、そして地域の皆様には大変お世話になっております。

私自身、地域に笑顔と元気を届け、地域の主体性を応援しようとの想いで日々活動しておりますが、それ以上に地域から沢山の元気を頂戴しています。日頃は通所リハビリテーションを担当しながら気仙2市1町への広域的な支援を担当しています。作業療法士として対象者の健康と幸福を促進するために、対象者にとって意味を持ち価値ある生活行為全般を支援し、寄り添いながら歩み続けることを目標としています。地域では認知症理解・認知症者とその家族を地域で支えることの必要性和健康生活の継続に向けより良い生活習慣を獲得することの重要性を提案しています。

当センターは県内で10ヶ所指定されているセンターの一つであるとともに県内の介護老人保健施設で唯一、県の指定を受けています。私は地域と近い環境で地域応援が行えることに常々魅力と可能性を感じております。

「リハビリテーション」は、本人の目標や夢の実現に向けた努力と地域資源や他者の協力が融合・調和するプロセスです。また、「地域リハビリテーション」は、障がいのある人々や高齢者およびその家族が、住み慣れたところで、そこに住む人々とともに一生安全にいきいきとした生活が送れるよう、医療や保健、福祉及び生活に関わるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動の全て、と定義されています。このことから地域リハビリテーションの充実に際しては皆様との顔の見える関係の中で協働し続けることが大切だと日々感じています。疾病や障がいの有無、年齢、性別を問わず全ての人が輝き、共生・共存可能な明るく、優しい地域づくりを皆様と共に推進していきたいと考えております。今後もチームけせんの和の一員として、リハビリテーション支援機関の立場で微力ながらお手伝いをさせて頂きたいと考えておりますので、皆様のご指導とご協力を何卒、宜しくお願いいたします。



「チームけせんの和」に寄せて

グループホーム「氷上山」 佐々木 祐希



佐々木祐希所長

グループホーム「氷上山」で所長をしております佐々木祐希と申します。

グループホームは、認知症の方が家庭の延長で家事などを共同で営みながら、住み慣れた地域で生活を継続していくことを目的とした事業所です。

グループホーム「氷上山」は平成24年の9月に開所し、ご家族のご協力をいただきながら、現在、9名の利用者さんと10名のスタッフが共に過ごしています。前述で家事などを共同で営みながら…とお伝えしましたが、来年で開所から10年を迎えるグループホーム「氷上山」は、利用者の皆様も「氷上山」と同じく歳を重ね、以前のようにモップ掛けなどの掃除や裁縫といった家事は思うようにできなくなっています。しかし、認知症や体の不自由さがありながらも、利用者さんが今できることの継続が大切だと考え、洗濯物をたたんだり食器を拭いたり、季節の行事といったことを生活の中でのリハビリとして取り組んでいます。

ところで、皆さんは認知症などの高齢者が焦らずに買い物を楽しめるように、見守りボランティアが付き添う「スローショッピング」をご存知でしょうか。陸前高田市ではアバッセたかたで週に1度開催されています。グループホーム「氷上山」でも、このスローショッピングに利用者さんと参加させていただきました。その時のボランティアの方の中に、利用者さんが昔仲人をした方がいらっしゃり、利用者さんも覚えていて懐かしさで涙を浮かべ喜ばれたということがありました。膝が悪く普段はあまり外に出る機会がない利用者さんでしたが、外に出ることでこういった機会があり、誰もが人と地域と繋がっているということを改めて感じられた出来事でした。

認知症では新しいことを覚えるのが難しいですが、昔の記憶（自分に自信を持っていた時の記憶）は鮮明なことが多いです。また、言葉がけひとつ、態度ひとつ、体験したことにその時その瞬間で様々なことを感じています。私は、私たち職員が関わることで利用者さんが笑顔をみせて下さると、この仕事をしていてよかったとしみじみ感じ、新たなモチベーションへと繋がります。認知症の方が自分らしくいられるようにお手伝いをしていけたらと思います。



利用者さんと畑



利用者さんと調理

令和3年10月5日(火)

令和3年度 第1回研修会(オンライン研修 61名参加)

テーマ「HOW TO 食事観察」

～ご家族・介護職「食べる」に関する困りごとをみんなで解決しよう～
講師 医療法人 和光会 天理駅前歯科診療所 院長 諸井 英二 氏

摂食はえん下の5期モデル(先行期・準備期・口腔期・咽頭期・食道期)があり、介護現場における食事摂取の困りごとに応じて、解決方法をわかりやすく、解説していただきました。

また、施設では安全に摂取できるように限定された食事形態や経鼻経管栄養、胃瘻造設等の栄養補給が選択されることが多い中、在宅でご本人やご家族が少しでも口から食べたい、食べさせたいという思いに対し、訪問歯科診療を行っている諸井先生は生死にかかわる誤嚥性肺炎のリスクを伝え、覚悟を察し、安全に飲み込む方法を検討。最後まで寄り添うことの大切さと、口から摂取するという本来の意味を改めて教えていただきました。

なお、会場の都合により一部の事業所にはオンライン参加をお願いしました。また、前会長の岩井直路先生にも千葉からリモート参加をしていただきました。オンライン研修も2回目となりスムーズに進行出来て主催者側としても安堵しています。皆様のご協力ありがとうございました。



陸前高田市社会福祉協議会事務所移転のお知らせ

この度、当協議会の本部が「陸前高田市保健福祉総合センター」へ移転いたしました。これからも、市民の皆さんとともに福祉を充実させていくため邁進して参ります。今後とも、より一層のご指導とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

新住所 〒029-2205 陸前高田市高田町字東和野11番地(陸前高田市保健福祉総合センター内)

電話 0192-54-5150 0192-54-5151

FAX 0192-54-4775

※ 電話番号の変更はありません

URL <https://www.rikutakasyakyou.jp/>

MAIL info@rikutakasyakyou.jp



《移転先》
陸前高田市社会福祉協議会



編集後記

夜寒が身にしみることとなりました。

会員の皆様は如何お過ごしでしょうか。

先日の研修会にはたくさんの方々の参加に感謝申し上げます。今後も対面及び、オンライン研修を予定しております。引き続き、皆様からは会報へのご意見ご希望等お気軽にご連絡いただければと思っております。

日増しに寒さが厳しくなって参ります。どうかご自愛くださいませ。